

中一 国語科通信

第3号
令和5年11月11日
国語科1年担当
福之内・狭間・日高



昨日は「5」今日は「2」吾子の手の甲に順
位書かれてマラソンの冬

百字の獅子

「百字の獅子」は第三回を
迎えました。が、苦しみつつも
一生懸命取り組んでくれるの
で我々も毎回楽しみに読ませ
てもらっています。十一月の
テーマは「茶」「七五三」「勤労
感謝の日(仕事・働く)」の三
本でした。今回も六名の作品
を紹介します。



〈七五三〉

「感謝」

一組 齊藤幸生

七五三は、三才、五才、七才まで健康でいられたことを祝う行事だ。昔は、七才までで死んでしまう確率が高かった。僕は、十二才まで何不自由なく生活できていることに感謝し、一日一日を大切にしていきたいと思う。

▼ただお祝いしてもらっただけでなく、七五三に込められた意味を知り、感謝の気持ちを持てるようになることが成長の証ですね。

〈仕事〉

「母の誇り」

一組 松山結衣子

私の母は弁護士だ。母は、世の中で起る様々な問題を解決するため奔走しているが、いつもこの仕事で私の誇りだと話している。私はそんな母を尊敬するとともに、母のように仕事に誇りを持っている人になりたいと思う。

▼お母さんの姿から、働くことに対するポジティブなイメージを持つことができて嬉しなのは幸せなことですね。

〈働く〉

「共働きなんだから」

二組 宮内一織

近年、共働き家庭がとも増えている。その中で「育メン」という言葉をよく聞く。育メンとは育児見聞ズの略だ。周りからはめられたりするようにだが、自分の子供だし、当然のことだ。家事も二人で相談し分担すべきだ。

▼三文以内で、というルールは無視していますが、「夫婦二人で家事育児を分担するのは当たり前男性(父親)だけがほめられるのはおかしい」という主張は、全女性の胸に刺さったぞ、きつと。

〈七五三〉

「まっ赤な着物」

二組 菅田愛

奮発して買ってくれたまっ赤な着物を見て、母の気も知らずピンクがいいと泣きわめく私。そんな記憶もあつたけど、写真の私は良い笑顔。去年の妹の七五三、私のおさがりに飛びはね笑ういい写真、眺めて笑う今日の私。

▼「私の七五三の年と、妹の七五三の「去年」と、「私」が写真を見ている「今日」……。時間軸がころころと変わるのが面白いですね。独特の文体にも引き込まれました。

〈茶〉

「寒い日」

三組 松岡樟之介

秋ももう冬に近づいていて、そろそろ指が悴み始める頃だ。そんな寒い日にはやっぱり温かい飲み物が飲みたくなる。温かい飲み物と言えは勿論ココアで、その温まったマグカップで指を温める時間が自分の中では最高だ。

▼湯気に乗ってふんわりと「コアの甘い香りが漂ってきそう。「茶(色)」から「コア」を連想し、しかし味ではなくマグカップのぬくもりに目を向けた感性が素敵です。寒い季節ならではの小さな幸せを教えてくださいませ。

〈七五三〉

「衝撃的事実」

三組 黒木英美

とても衝撃的だったことが私にはある。最近まで「七五三」の「三」は名前を呼ぶときにつける「さん」だと思いついてきた。母から「ばかじゃないの」と言われ、同時に二つの衝撃を味わったことは一生忘れないうら。

▼「二つの衝撃」を、説明的になることなく上手に書くことができました。幼少期の私は「富士山」と聞くたびに、何の疑いもなくアフロヘアのおじさんをイメージしていました。こんな勘違い、誰にでもあります……。よね？

コラムマラソン 第三回

「トビウオが飛ぶとき」

日高由里子

朝ドラ「舞いあがれー」が大好きです。平日は無理ですが、祝日は必ず見ます。再放送があつていたら見ます。もちろん年末の総集編も見ました。目黒蓮と赤楚衛二も素敵なんです。登場人物がお互いを思い合っていて発するセリフの数々が素晴らしい。感動して何度泣いたかわかりません。

「できんかは、次、できるよになればよか。そつてな、できんなら、できることは探せばよかとぞ」これは主人公、舞ちゃんのおばあちゃんのセリフ。この言葉聞いて、最短距離を歩き失敗なく効率よく結果を出すことに知られて、意固地になつていた自分に気がきました。育つていくということ、生きていくということ、こんな優しいまなざしを向けられる人になりたいと思ひました。

「一番難しいのは、やろうと決意すること。あとはあきらめずにやるだけ、です。ね」これは、アメリカでパイロットになるという夢を語る先輩に、舞ちゃんが贈った言葉。女性で初めて大西洋単独横断飛行に成功したアメリカ・イアハート(『ナイト・ミュージアム2』に出てくるアノ人!)の言葉の引用なんです。

アメリカの名言を調べてみたら「あなたは、あなたが決めたことをなんでもできるのです」「冒険は、それ自体に価値があります」という言葉もありました。迷ったとき、足がすくんでしまふとき、心が負けそうなとき、この言葉たちに背中を支えられてしっかり前を向けそうなきがしています。

新しい年が始まりました。どんな年になるかは自分次第。心も体も脳味噌もたくさん動かして、大きく成長したいですね。あなたも、私も。

きんさ

【僅差だったで賞】 勝者

1枚差 旭吉香穂・田中麗艶

1枚差 片山遙乃・赤城湖々・境田衣真

1枚差 青山侑加・工藤由宇

2枚差 野津手快人・渡邊陽仁・松田幸輝

2枚差 西前ひなた・小山田聖

【大差だったで賞】 勝者

30枚差 日高七碧・川上結愛

27枚差 山元芭奈・神崎素花

24枚差 比嘉千尋・串間希美・熊谷雛乃

16枚差 黒木奏帆・祐下奈々

15枚差 河野美佑・田口比菜・山内優河

百人一首大会

12/21

1年生にとって2回目の大会は、約40首覚えた状態での開催でした。取れる札が増えたり、上の句を聞いただけで歓声があがったりと、前回大会より確実に盛り上がっていました。次は春補習の時にいきます。暗唱テストを終えていないために大会の2時間を無駄にしないよう、毎週必ずテストを受けにいきましょう。



集中すると疲れるんよ……

